

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【那賀振興局】

重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】

～那賀いちご若手コミュニティ勉強会を開催～

令和8年7月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. フェロモントラップによる果樹カメムシ調査の実施	
2. 令和8年産柑橘肥大調査が始まる	
II 那賀振興局	2
1. 重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～那賀いちご若手コミュニティ勉強会を開催～	
2. 令和8年度環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 那賀）を開催	
III 伊都振興局	3
1. 隅田地域農産物利用推進協議会総会及び研修会	
2. 橋本市農業士会研修会を開催	
IV 有田振興局	4
1. 令和8年度アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会（みかんの粗摘果研修）を開催	
2. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催	
V 日高振興局	5-6
1. 令和8年度日高地方農業改良普及推進協議会通常総会を開催	
2. 日高果樹技術者協議会が令和8年産温州みかん着果状況調査を実施	
3. 由良町農業士会が研修会を開催	
VI 西牟婁振興局	7
1. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催	
2. 稲成いちご研究会が育苗ほ場の巡回及び意見交換会を実施	
VII 東牟婁振興局	8-9
重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】	
1-1. みくまの産地協議会がA G R I わかやま就農相談フェアに出展	
1-2. 那智勝浦町苺生産組合が第56回総会及び研修会を開催	
2. 那智勝浦町の小学生がスイートコーンの収穫・商品づくりを体験	
VIII 農業大学校就農支援センター	10
1. 令和8年度第1回A G R I わかやま就農相談フェアを開催	

1. 新任普及職員研修（前期）を開催
2. 普及指導員資格試験に向けた模擬試験を実施

I 海草振興局

1. フェロモントラップによる果樹カメムシ調査の実施

農林水産振興部や和歌山県農業協同組合わかやま地域本部及びながみね地域本部等で構成される和歌山地方総合農政推進協議会（会長：尾花正啓氏）では、果樹に被害を与えるチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ及びクサギカメムシの発生予察を行うため、フェロモンを利用した果樹カメムシ誘殺トラップをスギ・ヒノキ林などに設置し、定期的に誘殺数を調査している。

調査地点は和歌山市 1 ヶ所、海南市 4 ヶ所、紀美野町 5 ヶ所の計 10 ヶ所とし、4 月 16 日にトラップを設置後、4 月 23 日から 8 月 1 日までに計 15 回、調査を実施しており、調査結果はホームページ（※）を通じて迅速に生産者らに提供している。

令和 8 年度は、4 月 23 日に県農作物病虫害防除所から、果樹カメムシ類の注意報が発表されるなど、県全体でカメムシ類による農作物被害が懸念されており、今後も発生状況を注視していく。

※HP アドレス

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>



トラップを用いた誘殺数調査

2. 令和 8 年産柑橘肥大調査が始まる

和歌山県農業協同組合ながみね地域本部と農業水産振興課は、7 月から 12 月にかけて毎月 5 日と 20 日に、かんきつ類の肥大調査を行っており、本年も 7 月 6 日より調査を開始した。

調査は、うんしゅうみかんまたは中晩柑の園地（海南市、紀美野町）を対象に、1 樹あたり 30 果をラベリングし、縦径・横径を計測する。また、かんきつ類のじょうのうに果汁が溜まり始める 8 月からは糖度、酸度の測定も行う。

7 月の調査では、順調な果実の肥大が確認された。

今後も継続して調査を行い、得られたデータを生産対策や販売促進対策に活用していく。



ノギスを用いたみかんの計測

Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～那賀いちご若手コミュニティ勉強会を開催～

農業水産振興課では、いちごの若手生産者の仲間づくりや栽培技術等の情報交換ができる場として、令和6年度に那賀いちご若手コミュニティ（以下、コミュニティ）を立ち上げ、定期的に勉強会等を開催している。メンバー数は順調に増加して現在25名が加入している。

7月23日、コミュニティメンバーである三木氏の企画による勉強会を農業試験場で開催し、メンバー19名が出席した。

はじめに、アリスライフサイエンス株式会社の市川氏が「化学農薬だけに頼らないいちご作り」と題して天敵資材のメリット、デメリットや導入する時の注意点やポイント等について説明を行った。続いて、南海化学株式会社の佐伯氏がクロルピクリン錠剤の使用方法について、土耕栽培や高設栽培での具体的な事例を交えて分かりやすく説明した。

メンバーからは「天敵利用時に使える化学農薬の種類」、「天敵資材の価格」、「クロルピクリンを使用する時の被覆資材の材質や厚み」などについて質問があった。

最後に、農業試験場栽培部の嶋本副主査研究員がいちご高設ベッドでのメロン栽培試験について説明を行った後、試験ほ場の見学を行った。



いちご若手コミュニティ勉強会

2. 令和8年度環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 那賀）を開催

7月28日、農業水産振興課は、エコモデル園として設定している紀の川市尾崎の株式会社ビオランド紀の川（代表取締役：関 弘和氏）のなす栽培ほ場において、環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催し、その後、那賀振興局会議室で情報交換会を行った。環境保全型農業に興味がある農業者及び関係者28名が参加した。

現地ほ場では、関氏から病害虫の防除や自作堆肥についてなど、実践している有機農業に関して説明があった。参加者からは鳥獣害対策や除草について質問があった。

情報交換会では他地域での栽培状況や、病害虫の対策方法などを中心に、意見が交わされた。



なす栽培ほ場での現地研修会

Ⅲ 伊都振興局

1. 隅田地域農産物利用推進協議会総会及び研修会

7月12日、隅田地域農産物利用推進協議会（会長：乾 幸八氏）が橋本市隅田公民館で開催した研修会において、農業水産振興課の山口副主査が野菜の栽培に関する講演を行った。研修会には協議会会員約20名が参加した。

講演は「トマト、スイカの栽培について」と題し、和歌山県のブランド野菜の一つであるミニトマトと、夏の酷暑により需要が伸びている小玉スイカについて説明した。具体的には、各野菜の原産地や日本への伝来、特性、県内の栽培状況、直近の価格動向などを説明した後、露地栽培の方法や主な病害虫とその防除対策について解説した。

昨年スイカを栽培した参加者からは、アライグマ被害について報告があった。



山口副主査による講演

2. 橋本市農業士会研修会を開催

7月29日、橋本市農業士会（会長：中山英明氏）は、伊都振興局大会議室において研修会を開催し、会員のほかに橋本市認定農業者協議会会員ら合わせて14名が参加した。

研修会では、「和歌山県のカキ産地における果樹カメムシ類の発生生態と防除対策」をテーマに、今年発生が多く被害が懸念されている果樹カメムシ類について、かき・もも研究所の貴志主任研究員から講演いただいた。

内容としては、過去からの長期間にわたる気象条件の変化、カメムシの発生活動及びかき被害果率の推移、今年度の発生状況及び防除対策などについて説明いただいた。

質疑応答では、参加者から「果樹カメムシ類の耐暑性はどうか」、「薬剤散布の持続期間はどれくらいか」といった質問が出された。



貴志主任研究員による講演

Ⅳ 有田振興局

1. 令和 8 年度アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会(みかんの粗摘果研修)を開催

7 月 15 日、農業水産振興課は新規就農者（5 年以内）、有田農業女子及び有田地方 4 Hクラブを対象としたアグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会を有田中央高校のほ場で開催し、8 名の農業者が出席した。

まず、「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏から、みかんの粗摘果の講義と実演を行っていただいた。その後、参加者は佐原氏の指導の下、樹勢や着果状態を確認しながら、粗摘果を実践した。また、柏木普及指導員が摘果の省力化技術について説明を行った。

今回の研修は、8 月下旬に再び佐原氏を講師に招き、本研修会と同じ樹を用いて今回の粗摘果の効果を見ながら仕上げ摘果を行う予定である。参加者からは「参加者同士で樹の状態を見極め、意見交換しながら摘果量の確認ができ、有意義な研修であった。自園でも試したい」との感想が聞かれた。



粗摘果の実演を行う佐原氏



講義を行う柏木普及指導員（左）

2. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催

農業水産振興課は、有田川町の御霊小学校において、児童に地域の特産品である温州みかんへの理解を深めてもらうため、3 年生 52 名を対象に摘果と収穫の体験授業を実施している。

7 月 9 日の授業では、武内普及指導員と柏木普及指導員が摘果等の栽培管理及び世界農業遺産について説明を行い、現地実習では有田川町の地域農業士である玉置泰伸氏指導の下、玉置氏のほ場で摘果体験を実施した。児童から「傷や日当たりを考えて摘果する実を決めるのが大変だった」等の感想が聞かれた。

児童からは「みかんが野生動物の被害に遭うことはあるか」、「玉置さんの労働時間は朝何時から夜何時までか。一番忙しい時は一日どれ位働くのか」等、多数の質問が寄せられ、玉置氏が丁寧に回答した。

10 月には同じほ場で収穫体験を予定している。



柏木普及指導員によるみかんの授業



玉置氏による摘果作業の説明

V 日高振興局

1. 令和8年度日高地方農業改良普及推進協議会通常総会を開催

7月10日、日高地方農業改良普及推進協議会（会長：鳥居 稔氏）は日高総合庁舎別館で令和8年度通常総会を開催し、委員17名、県関係者4名の計21名が出席した。

通常総会では、令和7年度事業経過報告と収支決算報告、令和8年度事業計画案と収支予算案について審議し、原案どおりすべて承認された。

また、話題提供として、農業水産振興課の綱木普及指導員が「うめの低樹高化と摘心処理を組み合わせた省力的安定生産技術」について説明し、青取り（青梅の収穫）が主体の日高川町に設置している実証ほでは、不作の年でも安定して着果が多い事例などを紹介した。

うめを栽培している出席者からは、摘心に用いる充電式電動バリカンを補助事業の対象にしてほしいことや今後、導入したいので、技術指導をしてほしいとの意見があがった。



総代会

2. 日高果樹技術者協議会が令和8年産温州みかん着果状況調査を実施

7月22日、日高果樹技術者協議会（会長：勘代博文氏）は日高管内において、令和8年産温州みかんの着果状況調査を行った。

日高川町及び由良町の極早生12園地、早生20園地、中生5園地の計37園地にて枝当たりの着果数と果実の肥大状況を計測した。

調査の結果、枝当たりの着果量は、極早生が25.1個で平年よりやや少なく、早生が25.3個で平年よりやや多く、中生が21.5個で平年よりかなり多かった。また、果実の肥大状況は、極早生が40.5mm、早生が40.7mm、中生が39.4mmで、いずれも平年より大きかった。

一方で、園地によって着果量のバラツキが見られることや日焼け果の発生が報告されたことから、今後の天候を見極めながら、収量と品質を確保できるよう、栽培指導を徹底していきたい。



着果状況調査

3. 由良町農業士会が研修会を開催

7月23日、由良町農業士会（会長：城基泰裕氏）は由良町役場で研修会を開催し、会員11名、関係者3名の計14名が出席した。

はじめに、県果樹試験場の宮井主査研究員が温州みかんの新品種「あおさん」の栽培特性について講演した。続いて、勘代普及指導員が、ジベレリン散布による温州みかんの隔年結果是正による樹勢回復と安定生産に向けた実証試験の結果について報告を行った。

座学の後、参加者は由良町の現地ほ場へ移動し、由良町農業士会として今年度から試験栽培に取り組んでいる「あおさん」の苗木の生育状況を確認したほか、ジベレリン散布の実証ほを見学した。

参加者からは、「「あおさん」の樹勢管理が難しそう」との声やジベレリン散布により花芽が抑制されたことから「樹勢が以前より良くなっている」との意見があがった。



「あおさん」の生育状況を確認

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催

7月23日、振興局関係各課、市町、JAおよび県研究機関で構成される西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議が西牟婁振興局で開催された。

会議では、県内のクビアカツヤカミキリの被害状況や西牟婁地域内で年間2回実施している定点調査の結果について共有された。定点調査では、うめ、すもも、さくらの3品目のべ2,105本を5月から6月にかけて調査し、現時点で被害は確認されなかった。また、クビアカツヤカミキリの被害は年々拡大しており、西牟婁地域でいつ被害が確認されるか分からない状況になっているため、被害発生確認後の、悉皆調査の実施方法等について再確認するとともに、7月30日にかつらぎ町で実施される対策研修会への出席について協議した。

今後も調査や、チラシの配布による周知、啓発を継続し、早期発見に向け、警戒を強める。



連絡会議における協議

2. 稲成いちご研究会が育苗ほ場の巡回及び意見交換会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術の高位平準化及び高品質安定生産を図るため、毎年、定植前と共同出荷前に、栽培ほ場の巡回及び意見交換会を行っている。7月31日に開催された巡回及び意見交換会には、研究会会員、JAわかやま紀南地域本部営農指導員、普及指導員合わせて10名が参加した。

はじめに、会員の育苗ほ場を巡回し、苗の生育や病虫害の発生状況を確認した。続いて、農業水産振興課の出口技師から、令和7年作に会員のは場で実施した実証試験において、炭酸ガスの高濃度施用により収量や糖度が向上し、費用対効果に見合った効果が得られたことを報告した。

当課では今後とも、JAわかやま紀南地域本部と連携し、イチゴ栽培技術の高位平準化や高品質安定生産に向けて、ほ場の巡回調査や意見交換会で情報を共有するなど、同研究会の活動を支援していく



ほ場における現地検討

Ⅶ 東牟婁振興局

重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】

1-1. みくまの産地協議会がA G R Iわかやま就農相談フェアに出展

7月4日、A G R Iわかやま就農相談フェアが和歌山県 J Aビルで開催された。出展したみくまの産地協議会（構成員：J Aわかやまみくまの地域本部、くろしお苺生産販売組合、那智勝浦町、新宮市）のブースに1組3名の相談者が訪れた。

この相談者に対し、当課の橋本普及指導員が当地域の特徴、県や町による補助事業について、J Aわかやまみくまの地域本部の笹平営農指導員が当地域で営農する際のメリット、デメリットを説明した。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、J Aトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。



ブースでの就農相談

1-2. 那智勝浦町苺生産組合が第56回総会及び研修会を開催

7月24日、那智勝浦町宇久井の休暇村南紀勝浦において、那智勝浦町苺生産組合（会長：畑下由美氏）の第56回総会及び研修会が開催された。

当日は会員8名と来賓、関係者が出席した。総会ではR7年度事業報告等の全ての議題が承認され、畑下会長による挨拶、和歌山県農業協同組合みくまの地域本部向井本部長の祝辞の後、表彰式では、販売額等が優秀であった会員に対し賞状が授与された。

総会終了後、清和肥料工業株式会社の山野主任から「肥料基礎講座＋バイオスティミュラント(BS)資材『セルエナジー』のご提案」という標題で研修会が開催された。肥料についての基本的な考え方や、BS資材についての説明がされ、出席した会員から「BS資材の効果的な使い方は」、「今後も肥料は安定的に供給されるのか」といった質問があった。



総会における協議

2. 那智勝浦町の小学生がスイートコーンの収穫・商品づくりを体験

7月13日、新宮広域圏公設地方卸売市場が、那智勝浦町井鹿にて、勝浦小学校の児童24名を対象にスイートコーンの収穫体験を行った。

収穫体験では圃場主の松本安弘氏がスイートコーン（品種：ゴールドラッシュ）の収穫適期の見分け方や収穫方法の説明を行った後、児童たちは4本ずつ収穫した。

その後、児童たちは収穫したスイートコーンを用いて商品づくり体験を行った。収穫した4本のうち2本を厳選して、事前に児童たちが作成したメッセージカードとともに袋詰めした。

児童からは全体を通して「1日に何本スイートコーンがとれるか」や「種から育ててどのくらいで収穫できるか」など質問があり、松本氏がそれぞれの質問に丁寧に回答した。

質問の後、新宮広域圏公設地方卸売市場の中本氏が積極的に地元の食材を食べよう呼びかけ、締めめの言葉とした。

今後も協力関係機関と食育活動を実施し、児童たちが食や農業への関心を持ったり深めたりできる機会となるよう、継続して取り組んでいく。



児童との質疑応答



スイートコーンの収穫方法の説明

Ⅷ 農林大学校就農支援センター

1. 令和8年度第1回AGRIわかやま就農相談フェアを開催

7月4日、和歌山県JAビル（和歌山市）で令和8年度第1回AGRIわかやま就農相談フェアを開催した。本フェアは平成19年度から始まり今年で20年目を迎え、これまで63回開催し、計1,134名の方が来場された。

イベントの内容は、就農に係る個別相談と先輩新規就農者の体験談が聞けるセミナーとなっており、個別相談では、県職員が相談対応を行う県相談ブースをはじめ、JA、各市町協議会、わかやま移住定住支援センターなどを含む18団体が相談ブースを設け、県内外から36名の相談者が参加した。相談者からは「農地を確保したいがどうしたらよいか」、「栽培技術は何处で学べるのか」、「どのような支援があるのか」などの質問が寄せられた。

また、就農支援センターでの研修を経て、紀の川市で柿などの栽培をスタートし、加工品の販売や加工体験を通じて地域貢献されている方を講師に招き、新規就農セミナーを開催した。参加者からは「農業の楽しさが伝わった」、「就農までの流れが理解できた」などの声が聞かれた。

今年度は、同フェアをあと2回（11月29日、2月13日）JAビルで開催を予定している。



個別相談



新規就農セミナー

IX 経営支援課

1. 新任普及職員研修（前期）を開催

7月17日、今年度初めて普及組織に配属された職員を対象に、新任普及職員研修を実施し、新規採用職員6名を含む11名が出席した。

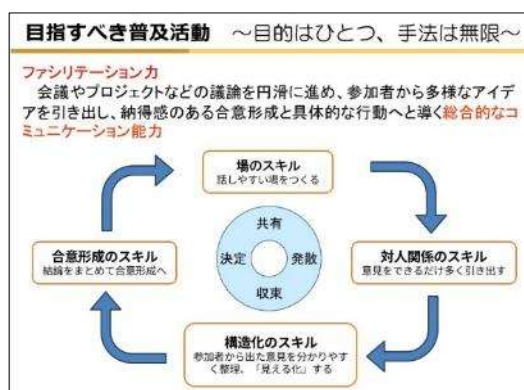
最初に、林農業革新支援センター長から令和7年4月に策定された協同農業普及事業の運営指針及び令和8年3月に県が策定した実施方針について、田中革新支援専門員が普及指導員の役割や実際の普及活動時に心がける事等について説明した。

その後、事前に提出のあった資料を基に、自らの業務で困ったことや他の出席者に聞いたみたいことを受講者から発表し、普及班員を交えて参加者全員で意見交換を行った。

参加者からは、「ディスカッションの内容は普及活動を行っていくうえで非常に参考になった」、「自分の業務以外でも積極的に現場に出て、様々な経験を積んでいきたい」などの感想が得られた。

今回は、普及計画の作成演習など実践形式で研修を実施する予定である。

協同農業普及事業の実施に関する方針 R8.3策定	
第1 普及指導活動の課題	第2 普及指導活動の方法
1 担い手の確保・育成	関係機関と連携し、意欲ある農業者や団体等に指導対象を重点化、行政施策等を効果的に取り入れた活動を行う
2 スマート農業技術の活用・普及	第3 普及指導員の配置
3 次世代につなぐ果樹産地づくりや野菜・花き産地の強化	第4 普及指導員の資質向上
4 農業経営の安定化	第5 活動体制の整備と組織運営
5 安全安心な農産物の安定供給	スマート農業等技術・経営に関する情報発信・相談窓口
6 活力ある農村づくり	第6 研修教育の充実強化
新たな運営指針に基づく県の実施方針をR7年度に策定	



講義内容

2. 普及指導員資格試験に向けた模擬試験を実施

6月の勉強会に引き続き、7月22日、当課では令和8年度普及指導員資格試験に向けた模擬試験を実施し、今年度の受験予定者10名が参加した。

各自、本試験まで残り1か月間の過ごし方を考えることを目的として、勉強の成果や得意分野、苦手分野を確認して頂いた。

試験は、本番と同様の時間を設定し、緊張感を持って実施した。参加者らは「論文を書く練習が必要」、「専門の勉強をもっとやらなければ」等、それぞれの課題を感じていた。

受験者全員が合格できるよう、今後も支援していく。

模擬試験 令和8年 普及指導員資格試験 審査課題ウ
設問1 普及知識問題
(1) 次の用語の中から二つ選択して、普及指導活動の観点から説明しなさい。(各用語の説明は、おおむね200字、全体で400字程度とする。)
① OJT研修 ② コーチング ③ 実証は ④ ファシリテーション
(2) 普及指導活動では、市町村・JA等関係機関・団体との連携が重要である。関係機関・団体との連携をする上での普及指導員の役割と心がけるべき点について、あなたの考えを述べなさい。(解答は、おおむね400字とする。)
設問2 現場課題解決問題
農業生産の現場では、担い手不足や高齢化が進行する中で、農業経営や技術レベルも多様化し、多くの課題を抱えている。 このような状況下で、あなたの担当地域(普及指導地域、都道府県域または域内の特定地域)において重要と思われる課題を一つ取り上げ、その現状を簡潔に説明するとともに、課題解決に向けて、どのような普及指導活動を展開するか述べてください。(解答は、おおむね1,200字以上1,800字以内とする。)

模擬試験 審査課題ウ

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489